

インドネシア活動報告⑰

株式会社マジオネット

JICA 青年海外協力隊 2016 年度 2 次隊

山口 麗子

【今月(7/17~8/16)の活動】

- ・指導案作成 ・「環境」授業(見学 3 回、実施 4 回) ・ジャカルタお掃除クラブ清掃活動(2 回)
- ・安全対策講習会 ・インドネシア隊員総会 ・中間報告会 ・環境分科会

◎「環境」授業

今月から、作成した指導案を使って隔週でヒカリ小学校 4 年生を対象に授業を行っている。ロンボクではオリジナルで教材を作り、自由に授業を行っていたが、現在の配属先では教科書に沿った授業が求められている為、時間内に単元目標を達成しなければならず、かつイレギュラーなことがあれば柔軟に対応もしなければならないので授業にはこれまでにない難しさを感じている。ただ、子どもたちは大変素直で、良く発言もしてくれるので、楽しく授業は行っている。また、隔週担当である為、自身の担当でない週は先生の授業を見て、授業の方法を学ぶようにしている。

◎ジャカルタお掃除クラブ清掃活動

日曜日(2 週間に 1 度)には、メダンでも活動した「お掃除クラブ」の清掃活動に参加している。場所はジャカルタ中心地、歩行者天国となっている通りで行っている。メンバーはメダンよりも少なく、毎回 10 名前後の参加者数である。しかし、企業や大学と提携して一緒に活動しており、毎回メンバーの入れ替わりがある。また、活動では住民への意識付けも重視しており、清掃活動中に自分のごみをごみ袋に入れてこようとする人がいた場合はその場で入れさせず、ごみ箱に入れるよう案内することで「ごみはごみ箱へ」という意識をつけさせようとしている。



◎インドネシア隊員総会、中間報告会

7/20、7/21 はインドネシア滞在中最後となる 4 回目の隊員総会と中間報告会が行われた。通常は最終報告会も併せて行われるが、今回は該当者がいなかった為、中間報告会のみとなった。現在インドネシアの隊員は 19 名で、これまでで最も少ない人数での総会となった。少人数な分、アット

ホームな雰囲気があり、各委員会による協議は比較的スムーズに行われた。隊員の任地紹介や悩み相談などのワークショップも行われ、隊員間の交流も行うことができた。

◎環境分科会

現在、インドネシアにいる環境教育隊員は 4 名であるが、来春までに全員帰国予定となっている。これまで環境教育隊員は先輩方が作ってきた教材や資料を引き継いでそれを活動に活かしてきたが、来春までに環境隊員が入ってこなかった場合、上手く引継ぎが出来ない可能性がある。そこで、今回は今後赴任してくる環境教育隊員への引継ぎ資料をまとめる為の分科会を行った。資料の数が膨大で時間内にまとめきることは出来なかったが、今後も各任地で作業を行っていく予定である。

【ロンボクで発生した大地震について】

7/29～8/9 にかけて自身の元任地であるロンボク島にて M7.0～M5.4 の大地震が立て続けに発生した。震源地は北ロンボク県である。私の任地は西ロンボク県であったので、被害はそれほど大きくなかったが、8 月 13 日の発表では、これまでにロンボク島全体で死者 436 名、負傷者 1353 名、家屋は 67,000 棟以上が倒壊し、38 万名もの人々が今も避難生活を続けている。8/10 には協力隊員で構成されている「ハリマタ委員会」(バザーを通して、インドネシアの恵まれない環境にある子どもや貧困地域、災害時の復興支援等を行っている委員会)に掛け合い、これまでのバザーの売上から西ロンボク県で被災した地域へ救援物資の支援を行わせてもらった。支援にあたっては、ロンボクで活動していた際に懇意にしていたごみ銀行のスタッフと連絡を取り、ロンボク島内で物資を調達、被害の大きかった地域へ届けてもらった。ロンボク島では今も大きな地震が続いており、未だ落ち着かない状況である。引き続き支援を続ける為、現在は協力隊員の中でロンボク島支援チームを作り、支援方法を模索しているところである。

一刻も早く地震が収まり、ロンボクの人々の生活が元に戻ることを切に願っている。

※8/19、再び M6.9 の大地震が発生した。幸い、津波はなく友人知人の被害もなかったが、地震が長引いていることで皆、疲弊しているようである。



西ロンボクケカイト村で倒壊した建物



支援金で購入してもらった救援物資の一部



避難テントの前にて